



青少年体験活動奨励制度

JAPAN YOUTH AWARD NEWS LETTER

青少年体験活動奨励制度とは

平成 25 年度から文部科学省の委託事業として、試行実施し、5 年目になる制度です。小学 4 年生から、中学生、高校生、大学生までを対象にしています。小学生・中学生のジュニア版は、3つの領域、「ボランティア体験」、「運動または学習体験」、「自然体験」の体験活動を一定期間継続することで、その達成を修了と認められ、高校生・大学生版は、4つの領域「ボランティア体験」、「運動体験」、「教養体験」、「自然体験」を、一定期間継続して活動を行うことで、その達成をもって修了と認められ、修了者には文部科学省から修了証が授与されます。

活動参加者には、必ずアドバイザーが担当としてつき、活動の開始から、計画を考えることや、記録ブックの書き方等、終了するまでサポートします。



表彰式

平成 30 年 3 月 14 日(水)文部科学省旧庁舎 6 階講堂にて、平成 29 年度の青少年体験活動奨励制度表彰式が開催されました。活動終了者 154 名、アドバイザー、保護者・引率者、関係者を入れて、総勢約 300 名が参加。文部科学省の神山修大臣官房審議官の挨拶の後、小・中・高・大学の各代表者に修了証が授与されました。その後、参加者の代表とアドバイザーの代表から活動の報告がありました。(活動報告の内容は 2 ページで紹介。)報告の後、青少年体験活動奨励制度委員会小森委員長が、ひとりひとりに修了証を手渡し、また、アドバイザーにも感謝状が渡されました。

(写真上は、小学生。写真下は、中学生、高校生、大学生の集合写真。)

表彰式：アドバイザーの活動紹介 アドバイザー 中島静香さん



東京都足立区青少年課から紹介を受け、アドバイザー活動を行うことになりました。担当した小学生は最初はお母さまと常に確認をとってから行動をするようでしたが、段々積極的に話すようになってくれました。ボランティアを決めるのが大変でしたが、自宅の外の掃除をすることから始めました。途中で息切れがしそうな時にはお母さまがアドバイスしてくれて本人の気持ちも軽くなり、うまく継続することができました。さらに活動を通して、子どもの視野が広がっていくことを体験活動 BOOK の記録から読み取ることができました。体験する場の減少は否めないですが、きっかけは大人がつくることができます。子どもたちの背中を押すことができるのは地域の人だと思います。

体験活動の基準 ジュニア版(小学生・中学生)

ボランティア体験	運動/学習体験	自然体験
週 1 日 1 時間程度 × 8 回(中学生 10 回)、もしくは隔週で 2 時間程度 × 4 回(中学生 5 回)	週 1 日 30 分程度 × 8 回(中学生 10 回)、もしくは隔週で 1 時間程度 × 4 回(中学生 6 回)	3 時間程度(中学生 4 時間程度)を 2 回、または 6 時間程度(中学生 7 時間程度)を 1 回

体験活動の基準 高大版(高校・大学・専門学校)

ボランティア体験	運動体験	教養体験	自然体験
<ul style="list-style-type: none"> ● 1 週間に 1 時間以上の頻度で活動を行うこと (1 時間を数日に分割してもよい) ● 3 ヶ月以上継続的に行うこと (3 領域のうち 1 領域は 6 ヶ月以上継続的に行う) ● 4 領域すべてを行うこと 			<ul style="list-style-type: none"> ● 事前準備、事前練習を行うこと ● 1 泊 2 日以上の宿泊を伴う活動を行うこと(1 日 6 時間以上)

表彰式：活動の事例発表

3月14日の表彰式で、小学生、中学生、高校生、大学生が発表した活動報告のダイジェストです。



小学生の部 長部 春花さん あきる野市立五日市小学校6年

青少年体験活動で自然体験にチャレンジ

自然体験活動の「あきる野サマーチャレンジ」の活動では、100キロをみんなで歩きました。雨の中を長距離歩いたことも思い出に残っています。川で流れに身を任せ川下りをしたことはとても楽しかったです。高校生になったら、今度は自分がスタッフとして戻りたいと思います。(ボランティア体験は清掃、運動/学習体験は、水泳にチャレンジ。)

中学生の部 永田 桃夏さん、仲田 未希さん 押木 七海さん、山本 理生さん 東京学芸大学附属小金井中学校2年

私たちの青少年体験活動奨励制度

全員、自然体験活動は、森林の保護管理活動をしました。森の境界の測量をしたり、間伐や、間伐後に生えてくる植生の調査は予想以上に大変でしたが、植物の偉大さを感じました。

ボランティア体験では、間伐材から作った積み木を使った接着剤を使わないタージマハルづくり、公園での清掃、落ち葉拾い。運動体験は、部活でハンドボール、卓球、ソフトテニスと各自それぞれで取り組みました。大変だったけれど最後までやりぬくことを学びました。



高校生の部 石井 喜大さん 聖徳学園高等学校 1年

青少年体験活動を通して学んだこと

日常生活に体験活動を上手に取り込むことを考えました。運動体験は、通学で毎日2Kmを歩き、教養体験は課外セミナーで英語を学び、英検に挑戦しました。ボランティア体験は、国際交流で香港の中高校生との交流会のイベントを受け持ちました。教室の掃除も楽しんで行い、自然体験は信州の高原の登山をしました。体験活動は、楽しんでやるのが継続につながると思います。

大学生の部 柿添 彩花さん 東京成徳大学2年

青少年体験活動を終えて

運動体験は、1日1万歩歩きました。歩き続けることで達成感が得られました。教養体験は、想像力を高めるため本を月2冊読み、手話の技術も高め、さらに聴覚障害について学ぶことができました。ボランティア体験は、子どもの世話をし、人との関わり方、声のかけ方、話し方を学びました。自然体験では、仲間と協力することができました。体験活動を通して、積極的にコミュニケーションをとること、継続して活動することの大切さを学び、大学での学びを豊かにし、自己覚知の機会となりました。





全国で、344名の小・中学生が参加し、177名が修了しました。その中から9組の体験活動をご紹介します。

金子 将英さん

東京学芸大学附属小金井小学校 4年

ボランティア 卒所した学童クラブでスタッフとして参加。名札の準備や片付けを手伝った。

運動/学習体験 新聞検定の初級合格を目指し、新聞をスクラップしたり、要約をした。

自然体験 海でサビキ釣りや山登り

感想 少し大変だったけど、普段できないことができてよかった。

和泉 有咲さん

七尾市立山王小学校 5年

ボランティア 保育園でのお手伝い。絵本の読みかせや積み木と一緒に遊んだ。

運動/学習体験 会社の設立から販売、決算、解散までの体験をする。企画書をつくり説明会を行った。

自然体験 農家で収穫体験と収穫した野菜を使って調理実習を体験した。

感想 たくさんの思い出がつくれてうれしかった。

馬 鳴謙さん、王 冠稀さん

練馬区立田柄小学校 4年

栗原 鈴帆さん、栗原 紫帆さん

練馬区立徳丸小学校 4年

ボランティア みんなで公園に行き、空き缶やゴミを拾ったり、落ち葉拾いをした。

運動/学習体験 サッカー、チェロ、水泳、ピアノ

自然体験 海でシュノーケル、キャンプ

感想 ゴミをひろっていると、通りかかった人から「ありがとう」と声をかけられてうれしかった。

小堀 絆菜さん

宇都宮大学教育学部附属小学校 4年

ボランティア 川をきれいにする清掃活動に参加して、川沿いのゴミを拾った。

運動/学習体験 未来創造大学の講座で、和紙づくりやお琴を弾いたり、おまわりさん体験等を体験した。

自然体験 田植えと稲刈りをした。

感想 琴を初めて弾いて、きれいな音が出てうれしかった。

Y.I.さん

東京学芸大学附属竹早小学校 6年

ボランティア ゴミ出しと、地域の情報誌の発行。

運動/学習体験 ミニバスケットボールの練習。

自然体験 鹿児島島の海で泳いで自然体験をした。

感想 ゴミ出しをすると気づかなかった面がわかった。

伊地知 幸那さん

町田市立町田第三中学校 1年

ボランティア 地域の清掃、学校の花植え

運動/学習体験 バドミントン、読書

自然体験 田植え、果物狩り、生物・自然観察(カエル、ザリガニなど)

感想 あまりやったことのない田植えやもちつき、オレンジ、イヨカン狩りが楽しかった。

田中 未来さん

天城町立北中学校 2年

ボランティア 朝の正門の掃除。

運動/学習体験 学校の外周を毎日ランニング

自然体験 畑の草抜きなどの作業をした。

感想 毎朝のランニングの成果が出て、持久走大会ではいい結果を残すことができた。

奥野 涼太さん

城陽中学校 1年

ボランティア 友愛の丘などで子供の遊びをサポート。

運動/学習体験 水泳で1200m泳いだり、演劇サークルで演劇を学んだ。

自然体験 落ち葉キャンプに参加し、かまどでご飯を炊いたり、森の探検をした。

感想 子どもたちが「キャンプにもっといたい!」、「楽しかった」と言ってくれた時、うれしかった。

西山 雅人さん

足立区立入谷中学校 2年

ボランティア 公園や地域のゴミ拾い、草むしり、落ち葉拾い

運動/学習体験 科学部で、花火についての調べ学習、実験、ランニング

自然体験 公園での自然観察。木や鳥を観察した。

感想 公園がきれいになってうれしかった。

全国で、124名の高校・大学生が参加し、92名が修了しました。その中から5組の体験活動を、「全体の振り返り」と共にご紹介いたします。

岩附 莉奈さん 洗足学園高校 2年

運動体験 ゴルフで、120m 飛ばせるように練習する。

教養体験 バレエで想像力を高める。

ボランティア体験 動物保護団体ヘカンガルーの赤ちゃんのポシェットを作って寄付をする。

自然体験 雪山のクロスカントリースキー

全体の振り返り 私はこの活動を通して、様々なことに挑戦しました。この挑戦は私にとって大変特別な経験で、それというも私はオーストラリアと日本の両国で活動を継続したからです。オーストラリアのホームステイ先周辺はゴルフ場に囲まれているという最高の環境でゴルフトレーニングを始め、ボランティア体験ではオーストラリアの野生動物たちのための活動をしました。自然体験では、まさにサバイバルのキャンプ、クロスカントリースキーで雪山を冒険し、必要なものはテントから食料まですべて自分たちで運び、夜は雪の上のテントまたはイグルーを作って寝たりというオーストラリアでしかできない、日本では絶対にできない経験ができました。継続することの大切さ、他人との協調性の重要さを改めて実感でき、実りのある活動となりました。



柴崎 愛澄さん KTC 中央高等学院 2年

運動体験 フットサルのトレーニングを通して、40分フルタイム動ける体力づくりをする。

教養体験 ギターの発表会でベストな演奏ができるように毎日練習をする。

ボランティア体験 地域の清掃活動に参加し、ゴミのない街づくりをする。

自然体験 屋久島を散策し、生息する固有種を発見し、観察する。

全体の振り返り 一番大切だと思ったことは、「継続力」です。ボランティア体験では、ゴミ拾いをしたけれど、他にも学校や地域のボランティアなどに参加したいと思いました。また、体験活動をするまで、運動を継続的にすることはなかったけれど、続けていると、体の調子がよくなったり、気持ちがスッキリしたので、これからも続けていこうと思います。



関屋 貴博さん 日本文理大学 工学部 建築学科 2年

青少年体験活動奨励制度のアドバイザーである教職員の方に声を掛けられ、何気なく始めた今回の体験でしたが、6か月間の活動を振り返ると、新たな発見や気づきを与えてくれる貴重な機会になりました。

特に、**教養体験**で取り組んだ宅地建物取引士の資格取得に向けた勉強では、理解することの喜びや楽しさを実感するとともに、継続することの重要性を再認識する機会になりました。受験や定期試験の為に、与えられた課題や出題範囲の対策に取り組んでいた以前の勉強に比べ、自らの意志のもと、勉強計画を立て、目標に向かって取り組んだ今回の勉強は、より自分自身の力になっていくように感じました。今回の体験で得た貴重な経験を、今後の学生生活に活かしていきたいと考えています。

運動体験 ウォーキングで体力向上。

ボランティア体験 荒れた里山を保全。

自然体験 国東半島の自然を体感。

全体の振り返り 自分で決めた目的と目標を達成することは意外と難しく、大変でした。しかし、自然体験やボランティア体験など自分一人ではできないものは仲間がいたからこそ達成できたものもあり、仲間の存在のありがたさを知ることができました。



阿部 翔真さん

札幌大学 地域共創学群 経済学専攻 1年

私は今回、青少年体験活動を通してとても多くのことを感じ、学ぶことができました。体験活動では教養体験、ボランティア体験を3ヶ月間、運動体験を継続体験として6ヶ月間行いました。

教養体験では、将来の夢である消防士になるため公務員試験合格を目指して試験問題集に取り組みました。最初の頃はほとんど解くことができず、ただ時間が経ってしまうことが多かったのですが、日が経つにつれて正答できることが増え、解答の解説なども読み、知識を広げることができました。

ボランティア体験では校内や通学路などのごみ拾い、冬場はマンションの雪かきや近所の多くの人たちが通る道が埋まってしまったところの雪道づくりをしました。こうしたボランティアに取り組んでみて、今まで自分たちが快適に生活できていたのは陰で多くの方が活動してくれていたからなのだと思いき、私も時間があればこれからも継続してみたいと思いました。

運動体験では陸上の大会でよい結果を出すためトレーニングを行い、怪我などで走れないときもあったのですが工夫して様々なトレーニングができました。

自然体験は、スケートリンクづくりを体験しました。最初は躊躇しましたが、違う部活の人たちと仲良くなれ、意外と楽しくて、挑戦してよかったです。

全体の振り返り どの体験でも、行ったことを振り返って書き出すことにより、良かった部分やさぼってしまった部分、反省点などが見つけやすかったので、活動してそれを記録に残すというプロセスはとても有意であると思いました。

中西 涼太さん

日本文理大学 工学部 建築学科 2年

私は、青少年体験活動奨励制度に挑戦してよかったと思うことが大きく二つあります。一つは、興味や関心はあるものの、一歩踏み出せずにいた私に、実行するきっかけを与えてくれたことです。

今回、私が取り組んだ**教養体験**での資格取得に向けた勉強や**ボランティア体験**での地域活動、**運動体験**での体カトレーニングや、**自然体験**でのサイクリングツアーは、全て在学中にチャレンジしたいことのひとつでした。

今後は、自らきっかけを掴み、様々なことにチャレンジしていきたいと思います。

二つ目は、本制度を通じて生まれた新たな出会いとつながりです。本制度に挑戦した仲間やアドバイザーは勿論のこと、奉仕体験や自然体験にご協力頂いた地域の方々ともつながりが生まれ、現在でも交流が続いています。この出会いを大切に、引き続き取り組みを発展させていきたいと考えています。この他にも多くの学びを得た今回の経験を今後活かしていきたいと思っています。

全体の振り返り 今回の体験を通して目標、目的を立て、スケジュールを立ててチャレンジしていくことが必要であると学びました。



「体験をカタチにしよう」開催報告

平成 29 年 7 月 2 日(日)に、東京学芸大学飯島同窓会館 2 階第 4 会議室で、シンポジウム「体験をカタチにしよう」を実施した。参加者は 53 名。

文部科学省小沢文雄専門官のご挨拶のあと、今年度の体験活動奨励制度の説明、体験活動の意義を中心に青少年体験活動奨励制度委員会小森伸一委員長が講演を行い、昨年度までにこの制度に参加した小学生、中学生、高校生、大学生、そしてアドバイザー経験者にそれぞれの体験活動を報告してもらった。

次に、アドバイザーの意義や役割について深谷昌志委員が講演を行った。今年度アドバイザーとして活動を考えている方や活動に興味のある親子の参加もみられ、7 月という時期の開催は、スタートアップとして有意義な会となった。



平成 29 年度 活動修了者数

小学生 177名

中学生 93名

高校生 36名

大学生 56名

合計 362 名

(参加者数 468名)

ブランチ

- 北海道ブランチ (札幌大学)
〒062-8520
北海道札幌市豊平区西岡 3 条 7 丁目 3 番 1 号
- 東日本ブランチ(教育支援人材認証協会本部)
〒184-8501
東京都小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学内
- 関西ブランチ (奈良教育大学)
〒630-8528
奈良県奈良市高畑町
- 中国四国ブランチ(中国学園大学・中国短期大学)
〒701-0197
岡山県岡山市北区庭瀬 83 番
中国学園大学・中国短期大学エクステンションセンター

青少年体験活動奨励制度 HP

<http://japan-youth-award.net>



青少年体験活動奨励制度
JAPAN YOUTH AWARD

〒184-8501
東京都小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学内
一般社団法人教育支援人材認証協会
青少年体験活動奨励制度 事務局
TEL:042-329-7605 mail:info@japan-youth-award.net